

A3サイズで提出する

婚姻届

届出日を記入

令和 7 年 7 月 1 日 届出

在オマーン日本国 大 使 殿

受理 令和 年 月 日
第 号

書類調査
戸籍記載
記載調査
調査票
附 票
住民票
通 知

必要事項をボールペンで記入する。
修正時は二重線で訂正する。修正ペン等の利用は認められない。

(1)	氏 名	夫 になる 人		妻 になる 人		
		氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	
		アルラワヒ	ハムードジャマールサーリム	外務	花子	
生 年 月 日		1992 年 5 月 1 日		平成 7 年 2 月 2 日		
(2)	住 所	オマーン国マスカット市		同左		
		マディーナトアルスルタンカーブース通り				
		1234番A102号室				
(3)	本 籍	オマーン国		東京地千代田区霞が関		
		番地番	番地番	2丁目2	番地番	
		筆頭者の氏名	筆頭者の氏名	外務 太郎		
	父 母 及 び 養 父 母 の 氏 名 父 母 と の 続 き 柄	父 アルラワヒ, ジャマールサーリムサウード	続 き 柄	父 外務 太郎	続 き 柄	
		母 アルバルーシ, アマルサウードムハンマド	二 男	母 省子	長 女	
		養父	続 き 柄	養父	続 き 柄	
	父 母 及 び 養 父 母 の 氏 名 父 母 と の 続 き 柄	養母	養 子	養母	養 女	
(4)	婚姻後の夫婦の氏・新しい本籍	☐ 夫の氏	新本籍(左の☑の氏の人が入すに戸籍の筆頭者となっているときは書かないでください)			
		☐ 妻の氏	(3)欄に同じ			
(5)	同居を始めたとき	令和 7 年 6 月 (結婚式をあげたとき、または、同居を始めたときのうち早いほうを書いてください)				
(6)	初婚・再婚の別	☒ 初婚 再婚 (☐ 死別 ☐ 離別)		☐ 初婚 再婚 (☐ 死別 ☒ 離別)		
		年 月 日		令和 2 年 5 月 1 日		
(7)	同居を始める前の夫婦のそれぞれの世帯のおもな仕事と	夫 ☐ 妻 ☐	1. 農業だけまたは農業とその他の仕事を持っている世帯			
		夫 ☐ 妻 ☐	2. 自由業・商工業・サービス業等を個人で経営している世帯			
		夫 ☐ 妻 ☐	3. 企業・個人商店等(官公庁は除く)の常用勤労者世帯で勤め先の従業者数が1人から99人までの世帯(日々または1年未満の契約の雇用者は5)			
(8)	夫 婦 の 職 業	夫 ☒ 妻 ☐	4. 3にあてはまらない常用勤務者世帯及び会社団体の役員の世帯(日々または1年未満の契約の雇用者は5)			
		夫 ☐ 妻 ☐	5. 1から4にあてはまらないその他の仕事をしている者のいる世帯			
		夫 ☐ 妻 ☒	6. 仕事をしている者のいない世帯			
	夫 婦 の 職 業	(国勢調査の年… 年…の4月1日から翌年3月31日までに届出をするときだけ書いてください)				
		夫の職業				
		妻の職業				
その他	届出人署名(※押印は任意)	令和 7年 6月 1日 オマーン国 の方式により婚姻成立、 オマーン最高司法協議会公証人局 作成の婚姻証書添付。				
届出人署名(※押印は任意)		夫 印		妻 外務 花子 印		
事件簿番号						

配偶者の片方が外国籍の場合の記入例

証 人		
署 名 (※押印は任意) 生 年 月 日	印 年 月 日	印 年 月 日
住 所	外国の方式で婚姻が成立している場合、証人欄は記入不要。	
本 籍	番地番	番地番

(1) 氏名：外国人の名はFirst name→Middle nameの順でカタカナで書く。「・」「,」「-」等の記号は用いない。フリガナ不要。氏がない場合は空欄にし、「その他」欄に補足記載する。
生年月日：外国人は西暦で、日本人は和暦で書く。

(2) 住所：日本式に国名から番地までカタカナで記入する。

(3) 本籍：外国人の本籍は国籍を記入（筆頭者氏名不要）。日本人は戸籍通りに記入する。
父母及び養父母の氏名：外国人の氏名は姓「, 」(コンマ) 名(First name→ Middle name)の順でカタカナで書く。

(4) 婚姻後の夫婦の氏：外国人との婚姻の場合、「夫の氏」「妻の氏」欄の□は空欄にする。
新しい本籍：婚姻により日本人配偶者を筆頭とする新戸籍が編製されるが、従前戸籍とは別の住所で新本籍を編製する場合、新本籍欄に地番を記入する。地番については、新本籍地役所へ事前に申請者自身が要確認。新本籍地の都道府県が変わる場合、パスポートの記載事項変更手続きが必要となる。日本人配偶者が既に戸籍の筆頭者である場合は当欄は空欄とする。

(5) 同居を始めたとき：和暦で記入する。
(6) 初婚・再婚の別：該当欄にチェックの上、死別・離別に該当する場合、日本人は和暦で、外国人は西暦で年月日を記入する。

(8) 夫婦の職業：国税調査が行われる、西暦の末尾が0か5の年の4月1日～翌年3月31日の間に届け出る場合のみ記入する。

その他：外国人との婚姻の場合、1行目の日付欄は婚姻証明書に記載の婚姻日（婚姻契約日）を、「の方式により」の前の欄には、婚姻が成立した国の国名を、「婚姻成立、」の後の空欄には婚姻証明書の発行者を記入する。

以下のような例は「その他」欄に記載する。
《例》婚姻証明書上の外国人配偶者氏名がパスポート氏名と一致しない場合（上記（1）の氏名欄は、フルネームで記載されている方（省略表記されていない方）にしたがい記入する）：
婚姻証明書上のアルラワヒ、ハムードジャマールと、アルラワヒ、ハムードジャマールサーリムは同一。

《例》外国人配偶者に氏（姓）がない場合（上記（1）で「氏」欄を空欄にした場合）：
夫は本国慣習上、氏を有しない者である。

届出人署名：日本人配偶者は自身で署名する（押印は任意）。ただし、2部用意する婚姻届を1部をコピーして作成・提出する場合、署名欄は空欄にしてコピーの上、それぞれに自筆で署名する。
外国人は署名不要だが、外国語で署名した場合、余白に、姓、名順で氏名をカタカナ表記する。

届出人の連絡先及び電話番号：本籍地役場からの照会に備え、Eメールアドレス、電話番号を記入する。